

事業概要票

事例NO. 39（平成20年度発表）

事例キーワード

1. 環境配慮に対し受注者側からの提案を求めた入札方式の採用

事業名		地方道路交付金事業	1. 環境配慮に対し受注者側からの提案を求めた入札方式の採用
事業担当機関		秋田地域振興局 建設部 企画道路建設班	
事業期間		平成18年12月～平成20年1月	
実施場所		男鹿市戸賀地内	
事業概要	全体事業費	253百万円	
	工事概要	三ノ目橋（綱上路式単純トラス桁橋）上部工 L=60.0m W=5.5（8.0）m	
	事業の目的	戸賀バイパス（L=2,658m トンネル1箇所 橋梁4箇所）の中の1橋梁である。県道男鹿半島線の男鹿温泉郷から戸賀湾へ下るこれまでの道路は幅員狭小でカーブがきついうえに、縦断勾配が16％で特に冬は大変危険であった。戸賀バイパスはこの問題を解消すべく、峠部をトンネルとし沢部に橋梁を架設することにより、縦断勾配を4％程度まで緩和して安全で快適な自動車走行を可能にしている。	
環境配慮の内容	1. 渓谷を60mを1スパンの橋梁で渡ることにより、途中に橋脚を排除し掘削による地表面の損傷を最小限に計画した。 2. 設計・施工一括発注方式及び契約締結後VE提案方式を採用することにより、受注者側から環境配慮に対する提案を求め、総合評価落札方式で業者選定に考慮している。 3. 金属表面の塗装には、一般環境で60～80年の耐久性があると言われている「亜鉛アルミ溶射＋封孔処理」を施し、再塗装によるライフサイクルコストの縮小に努めている。 4. 塗装色には、自然に溶け込む色として、樹木が作る影の色を模した「ダークブラウン色」を採用した。 5. 工事で掘削し埋戻した地表面には、外来種子や現場外からの種子を使用せず、「無幡種施工」を採用することにより、周辺に自生する植物の自然進入による緑化（植生誘導工）を目指している。		
施工後の状況	1. 橋脚を排除した橋梁形式を採用したことや、業者提案の「部分一括架設方式」の採用で工事中の仮設支保柱（ベント）を減少させ、渓谷の法面掘削を最小限とすることが出来た。 2. 業者提案により、部材を連結するボルト締めにはインパクトレンチを使用せず、電動レンチや油圧系の工具など低騒音機材を使用したことで、周辺動物など生態系への影響を低減した。 3. 塗装効果については、現場内で暴露試験を行い、経年変化を調査し耐久性を検証している。 4. 「ダークブラウン色」は試行錯誤の結果《マンセル値》5R3/1を採用したが、周辺景観と良くマッチしている。 5. 植生誘導工は、期待どおりの効果を得ている。		

図面、写真、説明

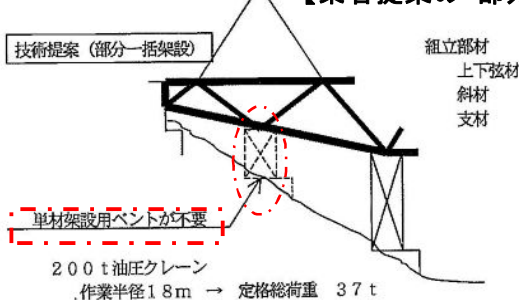
【位置図】



【完成写真】



【業者提案の「部分一括架設方式」】



【無幡種植生誘導工】

